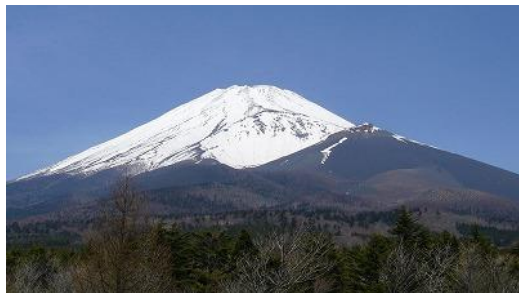


都留文科大学・富士山学・公開講座イン三島

「富士山が世界文化遺産にふさわしい山になるためには？」

— 「富士山の光と影」 実践者からの報告 —



富士山は、平成 25 年 6 月 22 日に世界文化遺産に登録され「世界の宝物」になりました。しかし、オーバーユースによるゴミの放置やし尿問題、環境被害の拡大など、現場では問題が深刻化しています。

今回、富士山の現場を熟知している実践者を招き、環境・生き物・ゴミ・教育など多様な観点から現状報告をしてもらい、あわせて世界文化遺産としてふさわしい富士山の管理体制のあり方や環境保全対策などを議論・提言します。皆さんの参加をお待ちしています。

日時 平成 27 年 3 月 13 日 (金) 18:30~21:00

場所 三島市商工会議所 4 階 B・C 会議室 (静岡県三島市一番町 2-29)

申込み 自由参加 (申し込み不要)

問合せ NPO 法人グラウンドワーク三島 TEL 055-983-0136 (担当: 修平・美和・山本)

プログラム

1. 「富士山の光と影」 実践者からの報告

(1) 「環境・生きものたち」などの報告

中川 雄三 氏 (動物写真家)



富士山の多様な魅力と問題について、自然環境や生き物たちの側面から臨場感ある写真・動画を通して報告します。現場を熟知している動物写真家の迫力ある映像を楽しんでください。

プロフィール

富士山麓を中心に野生動物の生息調査や記録写真を撮り続け、1987 年にヒメネズミの組写真で動物写真の登竜門・第 4 回平凡社「アニマ賞」を受賞。その後も積極的に身近な自然をテーマに観察会や講演会等の啓蒙活動を続け、人と野生動物との架け橋となるべく自然保護運動に力を注いでいます。

(2) 「ゴミ・産業廃棄物・エコツアー」などの報告

舟津 宏昭 氏 (富士山アウトドアミュージアム主宰)



富士山の環境被害の現状について、青木ヶ原などの裾野に放置されている大量の産業廃棄物の実態やロードキルの現状、富士山の不思議と楽しさをエコツアーとして提供している教育的効果などについて報告します。

プロフィール

2000 年都留文科大学大学院文学研究科修了。2001 年より NPO 法人富士山クラブ専従職員として富士山頂パイオトイレ実証実験や富士山麓清掃、不法投棄実態調査などに取り組む。2013 年(公財)粟井英朗環境財団事務局長を経て、2014 年より富士山アウトドアミュージアムでの活動を本格化させています。

2. パネルディスカッション「富士山が世界文化遺産にふさわしい山になるためには？」

渡辺 豊博 (都留文科大学文学部社会学科教授・富士山学開講)



世界文化遺産に登録された富士山。イコモスからの宿題を確実に解決できるのでしょうか。富士山学を開講している渡辺教授をコーディネーターに迎え、中川雄三氏と舟津宏昭氏により、世界基準に見合う管理体制のあり方や環境保全対策について議論・提言します。参加者との質疑応答も行い、双方向型のパネルディスカッションとします。

プロフィール

静岡県職員として農業基盤整備事業の計画の実施に携わり、生活・文化初代 NPO 推進室長等を経て、2008 年 4 月より都留文科大学教授。富士山学や地域環境計画ゼミ等を開講。グラウンドワーク三島をはじめとする 9 つの NPO 法人の事務局長職を歴任。地域づくりや水辺再生をしかける「まちづくりプロデューサー」の役割を、全国に先駆け先導しています。

主催 公立大学法人 都留文科大学 (この講座は、都留文科大学重点領域研究費交付金を受け実施しています。)